

# 事業のご報告

リコーリース株式会社 (証券コード 8566)

2010年3月期 (2009年4月1日～2010年3月31日)

## 2010.3 Contents

ハイライト	1
株主の皆様へ	3
事業紹介	5
Focus	9
トピックス・CSR・環境・社会貢献	10
財務諸表	11
会社情報・株主情報・株主メモ	15
株主の皆様の声・Q&A	17



# リコーリースはお客様の多様なニーズにお応えする フィナンシャルサービスを展開しています。

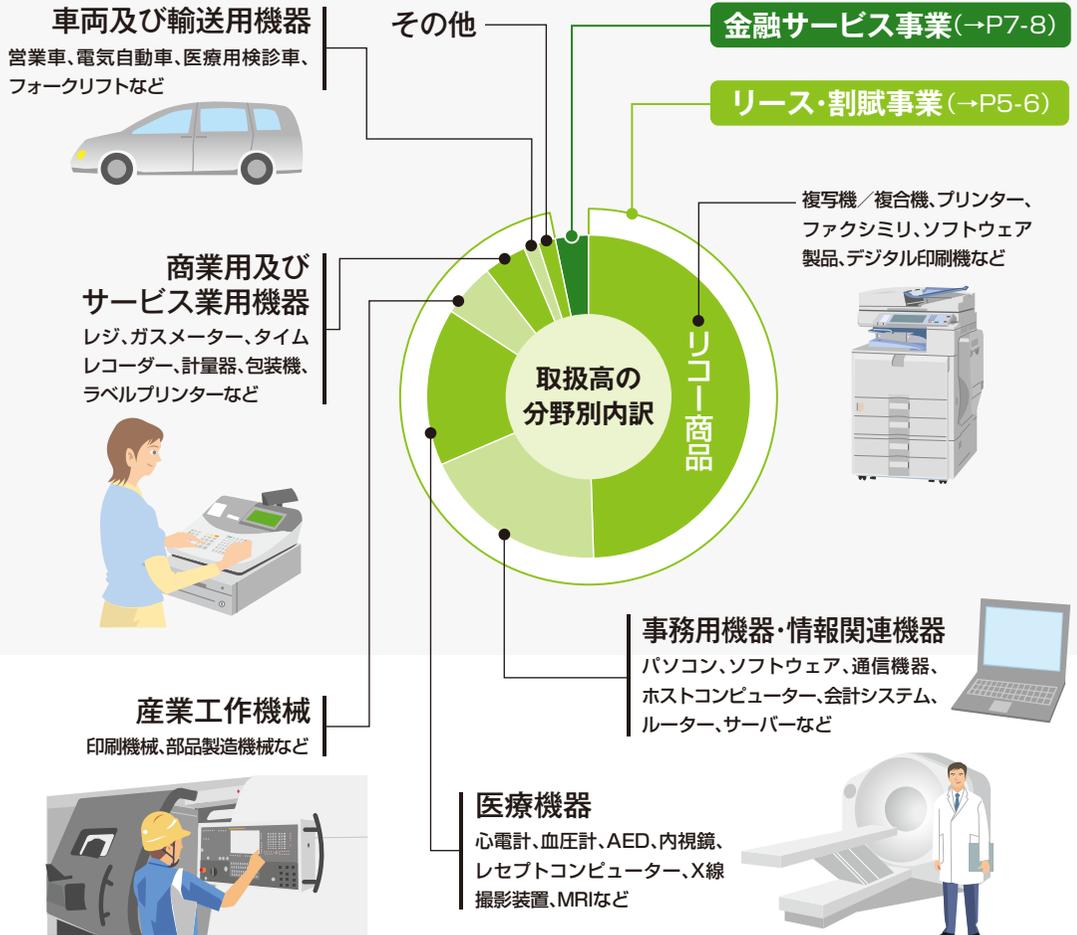
## ● 主な事業の概要

### リース・割賦事業

- **リース・割賦**  
リコー商品の販売支援型リースで培ったノウハウを活かし、様々な分野(下図参照)で企業を支援
- **レンタル**  
リコーリースグループのテクノレント株式会社による、複写機、電子計測機器、パソコンなどのレンタル事業 (PCマネジメントサービス(→P6))

### 金融サービス事業

- リコー集金代行サービス(→P8)
- 請求書発行代行
- カード事業(→P8)
- ビジネスローン 自融枠
- 職域ローン
- ドクターサポートローン



サービスの詳細は、こちらのホームページをご参照ください。 <http://www.r-lease.co.jp/service/>

## 当社の特長

取引先社数 **40** 万社

年間契約件数 **35** 万件

平均契約単価 **1.7** 百万円

中小企業を中心としたお客様基盤(お取引先の約98%)は、当社の特長の1つです。厳しい経済環境にあっても、**少額・大量契約**により**リスク分散**が図れます。

S&P(Standard & Poor's) **A+**

R&I(格付投資情報センター) **AA-**

JCR(日本格付研究所) **AA-**

高い格付けは、**好条件での資金調達**を可能にしています。**強い財務体質**はさらに当社への信頼を高めます。

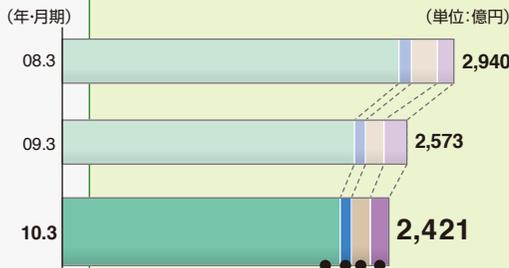
(2010年3月31日現在)

## 財務ハイライト (2010年3月期)

取扱高<sup>※</sup> **2,421** 億円(-5.9%)

※ 取扱高:リース、割賦および融資を契約実行した金額

### 取扱高の推移



ファイナンス・リース  
85%<sup>※</sup> 2,055億円  
オペレーティング・リース  
3% 65億円  
割賦  
6% 146億円  
金融サービス  
6% 153億円

※ パーセンテージの数字は取扱高構成比

リース・割賦事業では**医療機器が大きく増加**。金融サービス事業も健闘。

売上高 **2,285** 億円(-1.8%)

### 連結業績の推移(売上高/当期純利益)



資金調達費用の圧縮や経費削減などの経営努力により、**利益が増加**。

営業資産残高 **5,489** 億円(-1.9%)

1株当たり当期純利益 **213.17** 円(+17.15円)

注: 億円未満は切捨て表示しております。( )内は前期との比較です。

# 独自の経営戦略のもと、 今こそ次の成長に向けた 準備を着実に進める時

景気動向の変動や

お客様のニーズの多様化等、

激しく変化する経営環境を好機と捉え、

営業力強化でお客様との

新たな関係構築に取り組み、

優良資産の拡大を目指します。



代表取締役 社長執行役員 CEO  
有川貞広

## 主な取り組み

1. リース・割賦事業取扱高の拡大
2. 高効率・高収益体質実現のための活動強化
3. 金融サービス事業の拡大
4. 人材育成

## 私のモットー

### 「行いにせずばかひなし」

「いにしへの道を聞きても唱へてもわが行いにせずばかひなし」——これは戦国時代の武将で島津家中興の祖・島津忠良(日新齋)が残した47首の教育論「日新公いろは歌」の第一番。実践・行動の重要性を教えるこの歌を、鹿児島出身の私はとても大切にしています。

いつの世にあっても、理想を述べるだけでなく、実践・実行するのは並大抵のことではありません。壁や課題を乗り越えるには、相当な努力とエネルギーが必要です。厳しい経済環境が続く中、やるべきことを着実に「行いにしていく」ことこそ、当社が更なる発展を遂げ、株主の皆様のご期待に応える道であると信じています。

## 当期の業績と業界動向

### 売上高は微減ながら、経営努力で増益確保

2010年3月期の連結業績は、売上高2,285億円(前期比1.8%減)、経常利益113億円(同11.4%増)、当期純利益は66億円(同8.7%増)でした。

リース取扱高の減少が売上高にも影響しました。しかし、設備投資抑制等によるリース業界全体の低迷が続く中において、当社は**ベンダー\***と一体となった営業活動を行う「販売支援型リース」を主軸として、独自の営業活動を展開し、取扱高の落ち込みを抑えました。金融サービス事業では、診療所の開業支援融資や住宅ローンの取扱高が順調に伸び、営業資産残高が増加しました。また、経済環境悪化に伴い貸倒費用が14億円増加しましたが、経費の抑制や資金調達費用の削減などに努め、営業利益は13億円増加の115億円(前期比12.9%増)となりました。

## 持続的な成長に向けた取り組み

### ベンダー営業や優良ユーザーの接点活動に注力

依然厳しい環境が続く中、当社は左記に掲げた4項目に積極的に取り組み、次なる成長に向けた準備を着実に進めていきます。

リース・割賦事業は、事務用機器・情報関連機器や医療機器などの分野で有力ベンダーとの更なる関係強化を進め、安定取引基盤の構築を図ります。また、組織体制を見直し、大手企業や官公庁などの優良ユーザーに対する接点活動の強化を図ります。これらの取り組みを通じ、効率的かつ着実に実績を積み上げ、優良な資産の維持・拡大に努めます。

また、金融サービス事業においても、営業利益構成比を中長期的には20%まで引き上げることを目標に、引き続き開業支援融資や請求書発行代行サービスなどの手数料ビジネスの拡大、そして新たなサービスの開発に注力していきます。

こうした営業活動と同時に、厳格な審査とリスク管理の徹底による貸倒費用の低減、継続的な業務プロセス改革による組織の筋肉体質化等、効率性と収益性を高める取り組みが、経営基盤の強化には欠かせないと考えています。

## 人材の育成を通じた企業価値向上

### 「人財」を活かした健全な経営

顧客接点営業の強化や金融サービス事業の拡大などを具体的に現場で実行するのは社員であり、一人ひとりの働き度合いで、企業の成長力が決まります。企業価値の向上には、社員の能力の向上および適切な活用が不可欠となっています。引き続き、**キャリアパス制度\*\***などによる「人財」の育成に取り組んでいきます。

## 長期的に安定した株主還元

### 上場以来15期連続の増配

当期の配当は、38円(前期比2円増加)と1996年の上場以来15期連続の増配といたしました(株式分割による実質増配を含む)。今後とも株主・投資家の皆様にはできる限り迅速な情報開示と積極的なコミュニケーションに努めてまいりますので、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### 配当金の推移



### 語句解説

※1 **ベンダー**: 当社のお取引先。リコーの販売会社、リコーの製品を扱う販売店、医療機器を扱うサプライヤーなど。

※2 **キャリアパス制度**: 契約、審査、営業、スタッフなど複数の職種・職場を経験し、自分に適した職種でスペシャリストを目指す人材育成の制度。

## 『販売支援型リース』の進化と 『フィナンシャルサービス』の提供



### 有力ベンダーとの関係強化と 優良ユーザーへの提案営業推進

取締役 専務執行役員 島田昇次

昨今の厳しい環境下、業界全体のリース取扱高は前年割れが続いています。そのため、当社は昨年10月に営業本部を立ち上げ、意思決定スピードの向上と営業力強化を図りました。多様化するお客様の声をお聞きできるよう、営業は行動量にこだわった活動を続けました。これらの結果、2009年度下期は業界の中でいち早く取扱高を前年比で増加させることができました。

当社は、ベンダーを支援する『販売支援型リース』を主軸に発展してまいりました。主力の事務用機器・情報関連機器においてはベンダーへの『お役立ち』に磨きをかけ、関係強化を図りました。重点分野の医療機器においては、ベンダーへの深耕活動や開業医向けのコンサルティング活動により取り扱いを大きく伸ばしました。また、優良ユーザーへの付加価値提供にも注力し提案営業を推進しました。具体的には、単なる機器提供ではなく、機器使用に伴い発生する付帯業務の効率化にまで踏み込んだ提案を“パソコン”や“車両”の分野で推進しております(右ページ参照)。



## お客様への 付加価値提供

神奈川支社 支社長  
穂満俊典(写真右)

神奈川支社  
大島優子(写真左)



### ●お客様はどんなことに困っていましたか？

穂満 神奈川県下の某社様では、情報システム部門でPC(パソコン)のキッティング\*業務負荷が課題となっていました。これに対し、当社はキッティングの受託を含んだPCレンタル“PCマネジメントサービス”(下図参照)を提案しました。

### ●お客様の反応はどうでしたか？

大島 提案が評価されPCマネジメントサービスの申込みをいただき、その後も車両やその他設備のリース契約をいただくことができました。

穂満 機器使用に伴う付帯業務の効率化も含めた様々な提案に対し、担当者様だけでなく役員の方にも大変ご満足いただきました。

### ●今後どのような営業活動をしていきたいですか？

大島 今後はITインフラの管理責任者に対する提案で信頼関係を構築し、他の提案にもつなげたいと考えています。

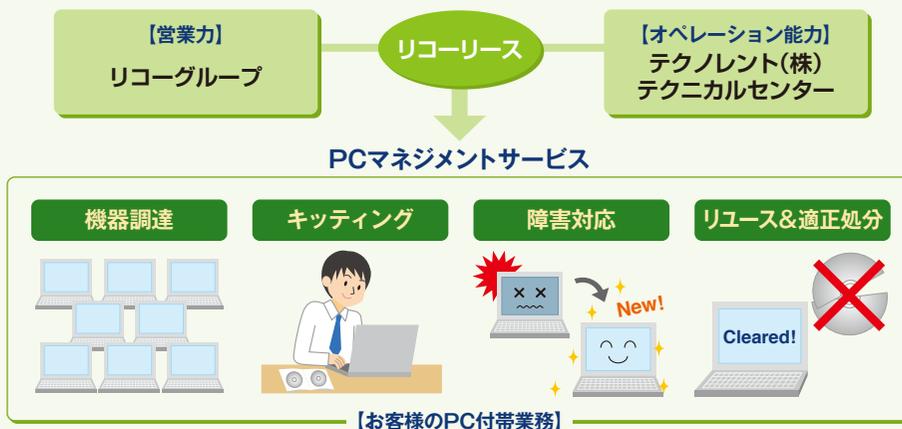
#### 語句解説

※キッティング:PCなどのハードウェアを実際に使用できる環境まで組み上げる作業(OSのセットアップやアプリケーションソフトのインストール、メモリやハードディスクの増設)のこと。当社ではこれに加え、資産管理のための資産シール貼付も行います。

## PCマネジメントサービス

PCを快適に利用するには、①導入準備(キッティング)、②障害対応(代替機提供)、③適正な処分(データ消去等)など多くの付帯業務が発生します。当社では、これらの業務を効率化する商品として、2009年10月より“PCマネジメントサービス”を推進しております。

本サービスは、関連会社のテクノレント(株)が持つテクニカルセンターでお客様のPC付帯業務を効率的に運用し、付加価値をご提供するものです。リコーグループの営業網および提案力とテクノレント(株)のテクニカルセンターのオペレーション能力による相乗効果で、他社との差別化を実現しております。



## お客様の経営や業務効率化を 金融サービスでサポート



多様化するお客様のニーズに  
『フィナンシャルサービス』を提供

取締役 専務執行役員 打込愛一郎

金融サービス事業は大きく2つに分類されます。1つは法人・個人向け融資です。2010年3月期は法人向けのローンが減少する中、診療所の開業資金向け融資（ドクターサポートローン）や個人の住宅ローンが堅調に伸びました。

もう1つは手数料ビジネスです。当社の主要顧客である中堅・中小企業のお客様に対する『お役立ち』として、業務の効率化サービスを提供しています。特に、売掛金の集金や請求書発行の代行サービスは、1件からでも可能なサービスとして喜ばれています（右ページ下図参照）。また、カード事業では、新商品として海外へ進出する企業に向けて海外出張経費の精算業務を効率化する“リコグローバルマネーカード”を出しました（右ページ上部参照）。

今後も多様化するお客様のニーズに対し、金融面から課題を解決する『フィナンシャルサービス』を提供してまいります。



徹底したお客様視点で新商品を開発

## リコーグローバル マネーカード

金融サービス事業部  
事業統括室  
橋爪幸子



### ●お客様はどのようなことでお困りでしたか？

グローバル化や法的環境の変化によって、外貨の手配・精算など、海外出張に必要な不可欠な経費関連の処理は煩雑化しています。実際に出張に行かれる社員様の利便性を保つことが課題となっており、様々な業種の企業様からお問い合わせをいただくようになりました。

### ●新商品はどんなサービスですか？

リコーグローバルマネーカードは、Visaプリペイドカードです。カード専用の口座に事前入金すれば、その分だけ現地通貨で現金が引き出せ、現地で資金が足りなく

なった時も、日本から追加入金ができます。また、海外のVisa加盟店でのショッピングやホテル代の支払いにも利用可能です。

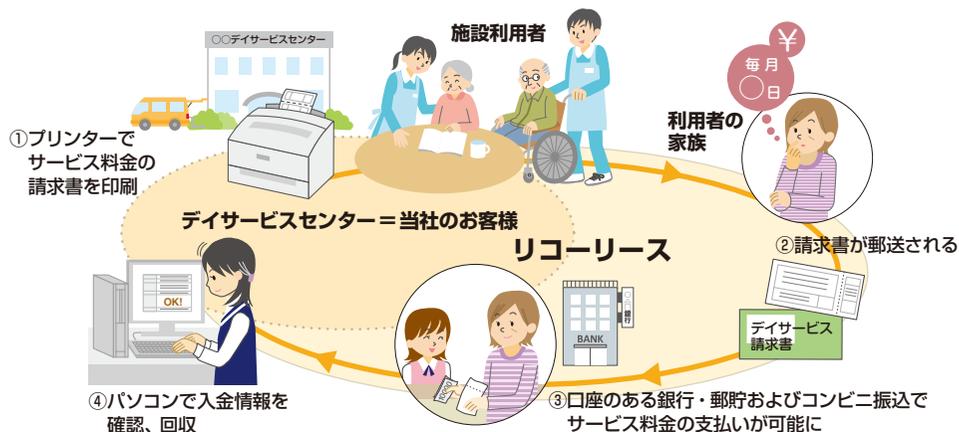
カードの活用により、外貨調達の手間や、現地での両替の手間が削減され、経費精算業務の効率化につながります。

### ●今後の抱負を教えてください

提案中の会話で、商品の新たな活用方法に気付くことも多く、お客様視点の大切さを実感しております。今後もお客様の声を反映した、新しいサービスを開発していきます。

## リコー集金代行サービス

当社が提携する金融機関・郵便局・コンビニエンスストアとのネットワークを活かし、口座振替サービス、コンビニ収納サービスを少ない件数でも初期費用の負担なく、簡単に導入していただけることが特長です。



### ■口座振替サービス

当社の口座振替ネットワークを利用して電気料金などの公共料金と同じように、お支払いいただく方の預金口座からお客様の売掛金を代行回収するサービスです。

### ■コンビニ収納サービス

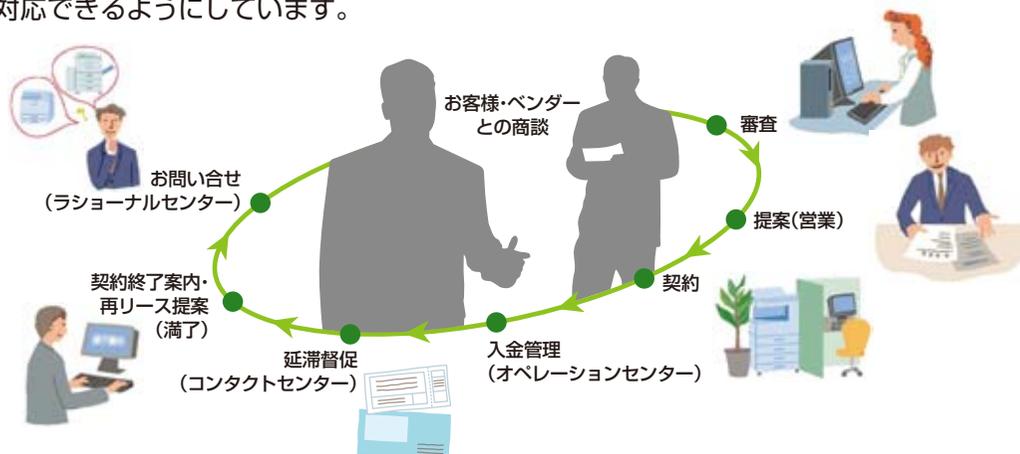
お客様の売掛金を当社提携の約40,000店舗のコンビニエンスストアが24時間365日受付窓口となって代行回収させていただくサービスです。

サービスの詳細は、こちらのホームページをご参照ください。 [URL http://www.r-lease.co.jp/service/](http://www.r-lease.co.jp/service/)

# FOCUS お客様を支えるスタッフたち

契約手続から契約終了まで快適にリース物件を使用していただけるよう、当社ではお客様を支える様々な役割のスタッフが活躍しています。

スタッフ同士で密なコミュニケーションをとり、どのようなお問い合わせにも迅速に対応できるようにしています。



今回フォーカスしたのは「**営業**」「**審査**」「**契約**」です。



## 営業

お客様の困りごとや要望をお伺いし、それぞれのお客様にとって最適な提案を行います。そのために社内でも定期的に成功事例や税務・会計の勉強会を行い、複雑化するお客様のニーズを把握できるように努めています。

## 審査

5年という長期間にわたってリース料をお支払いいただけるか審査します。審査にあたって、企業情報や決算書を取得するほか、個人信用情報、登記簿謄本など様々な情報を収集しますが、それらの情報は審査システムに蓄積され、当社の審査ノウハウとなっています。

## Message

審査は、お申込み内容に基づき諾否を判断する重要な業務ですので、お客様の依頼に素早く回答できるよう、スピードが求められています。また、適切な審査情報を収集するために、チーム内でも確認し合いながら常に厳しいチェックを行っています。

首都圏業務部 与信センター 織戸和歌子



## 契約

営業から受け取った契約書に記入漏れなどの不備がないかを確認し、リース期間やお支払い金額など契約内容についてお客様に電話で確認します。また、リース契約期間中には請求書やリース終了日の確認など、お客様からの様々なお問い合わせに対応します。

## Message

毎日たくさんのお客様とお電話で話しますが、顔が見えないからこそ形式的な受け答えにならないよう丁寧な対応を心掛けています。お客様から「親切でわかりやすい」などお褒めの言葉をかけていただくときなど、とてもやりがいを感じます。

首都圏業務部 第一契約センター 大森はるな



# 2009年度 リコーリース ダイジェスト

2009  
4

- ・2009年3月期 決算説明会開催
- ・第11回無担保社債を発行

5

6

- ・第33回定時株主総会開催
- ・有川代表取締役社長執行役員就任
- ・期末配当支払い

7

- ・株主優待品送付／「緑の募金」寄付



(社)国土緑化推進機構 常務理事 大島氏(右)から感謝状を受け取る当社 代表取締役社長執行役員 有川(左)

8

## CSR

### 「次世代認定マーク(通称:くるみん)」を取得

第1期(2007年取得)に続き、第2期も仕事と育児の両立支援に積極的に取り組む企業として「次世代認定マーク」を取得しました。第2期では、社内の育児支援制度の充実や有給休暇を取得しやすい環境作りの実績が認められました。



## 環境 新聞掲載 (日本経済新聞09年8月8日付)

### 営業車、バイオ燃料推奨

営業車の給油時に、再生可能なエネルギーであるバイオ燃料の利用を推奨しました。また社内でも毎月「エコドライブコンテスト」を実施、燃費改善を促進しています。2009年度は約26トンのCO2排出削減を達成しました。

9

- ・「CSR報告書2009」をWEBで発行

## 社会貢献 新聞掲載 (河北新報09年9月25日付)

### ピンクリボンフェスティバル2009に参加

当社は2004年以来ピンクリボン活動を続けており、毎年ピンクリボン・シンポジウムに協賛しています。各地のスマイルウォークに多くの社員が参加、乳がんの早期発見を呼びかける活動に協力しています。



スマイルウォーク(仙台)

10

- ・2010年3月期第2四半期決算説明会開催

## 新商品 新聞掲載

(日本経済新聞09年11月2日付、日刊工業新聞09年11月5日付)

- ・リコーグローバルマネーカード発行 詳しくはP8をご覧ください。

11

## 環境 新聞掲載 (日本経済新聞09年12月3日付)

### 第13回「環境経営度調査」の企業ランキング、金融部門で第2位に

12

- ・中間配当支払い

## CSR 新聞掲載 (日本経済新聞10年1月25日付)

### 乳がん検診実施

乳がん検診率向上策の一環として、本社内で検診会を実施しました。健康保険組合からの補助を使うことによって、社員負担はゼロとなっています。その結果、本社の検診率は86%に高まりました。



超音波診断装置

2010  
1

- ・第12回無担保社債を発行

2

3

## 売上高

取扱高減少が売上高減に影響、  
受取手数料は順調に増加

前期比 **1.8%減**

売上高は前期比41億円減少の2,285億円となりました。景気回復の動きはあるものの設備投資抑制が続いていることから、取扱高は減少し、賃貸料収入や割賦売上高が減少しました。一方、集金代行サービス等による受取手数料は順調に増加しました。売上原価は64億円減少し、売上総利益は前期比23億円増加の280億円となりました。

## 経常利益

貸倒費用増加を、資金調達費用・  
経費の抑制でカバー

前期比 **11.4%増**

経常利益は、前期比11億円増加し113億円となりました。経済環境悪化に伴い貸倒費用が14億円増加しましたが、資金調達費用の削減や再リースの伸長、業務プロセス効率化による販売管理費の削減などによってカバーし、経常利益は増益に転じました。

## 当期純利益

3期ぶりに増益に転じる

前期比 **8.7%増**

当期純利益は、前期比5億円増加の66億円となりました。前期は新リース会計基準適用による特別利益がありましたが、前期を上回る収益を計上することができました。

## 連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	前 期 2008年4月1日～ 2009年3月31日	当 期 2009年4月1日～ 2010年3月31日
● 売上高*	<b>232,681</b>	<b>228,570</b>
賃貸料収入	196,280	195,055
実質賃貸料収入	208,701	205,868
流動化分	△12,420	△10,813
割賦売上高	11,483	10,434
営業貸付収益	2,038	2,017
受取手数料	2,294	2,418
その他の売上高	20,584	18,645
売上原価*	<b>207,040</b>	<b>200,562</b>
賃貸原価	174,666	171,442
割賦原価	10,406	9,410
資金原価	4,520	3,909
その他の売上原価	17,446	15,799
売上総利益	<b>25,640</b>	<b>28,008</b>
販売費及び一般管理費	<b>15,448</b>	<b>16,498</b>
営業利益	<b>10,192</b>	<b>11,510</b>
● 経常利益	<b>10,179</b>	<b>11,338</b>
特別利益	<b>615</b>	-
特別損失	<b>308</b>	-
税金等調整前当期純利益	<b>10,485</b>	<b>11,338</b>
法人税、住民税及び事業税	4,718	4,612
法人税等調整額	△379	34
少数株主利益	27	37
● 当期純利益	<b>6,119</b>	<b>6,654</b>

※売上高・売上原価の科目は、前期との比較を容易にするため前期の科目に合わせて記載しています。

### 語句解説

#### 流動化:

リース料債権の流動化の略。

リース会社はリース料債権を売却することによって資金調達を行います。新リース会計基準適用により、売却したリース料債権は資産からなくなり、売上にも計上されなくなります。

(→P11 連結損益計算書、売上高内訳)

#### CP:

コマーシャル・ペーパーの略。

企業が金融市場から資金調達をする手段の1つ。1年以内の返済を約束する約束手形。

(→P12 キャッシュ・フロー計算書、P14 有利子負債)

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前期 2008年4月1日～ 2009年3月31日	当期 2009年4月1日～ 2010年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△2,201	28,865
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,967	△235
財務活動によるキャッシュ・フロー	21,565	△46,028
現金及び現金同等物の増減額	17,396	△17,398
現金及び現金同等物の期首残高	491	17,888
現金及び現金同等物の期末残高	17,888	489

## キャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、前期比310億円増加し288億円の収入となりました。営業資産残高が106億円減少したことが主な要因です。投資活動によるキャッシュ・フローは、社用資産の購入により2億円の支出となりました。財務活動では、長期借入金やCPの返済により、前期比675億円減少し460億円の支出となりました。

## 次期の見通し

(単位:百万円)

	当期 2009年4月1日～ 2010年3月31日	次期 2010年4月1日～ 2011年3月31日
売上高	228,570	224,000
営業利益	11,510	12,000
経常利益	11,338	11,700
当期純利益	6,654	6,850
1株当たり当期純利益	213.17円	219.43円

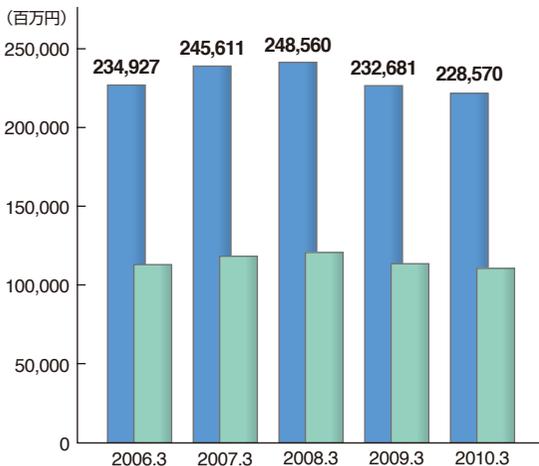
## Check point

## 次期の見通し

新規の取扱高減少が続いていることから、売上高は2.0%減少の2,240億円を予想。厳格な審査によるリスク管理の徹底と収益性を重視した営業活動により、経常利益および当期純利益は増益を予想しています。

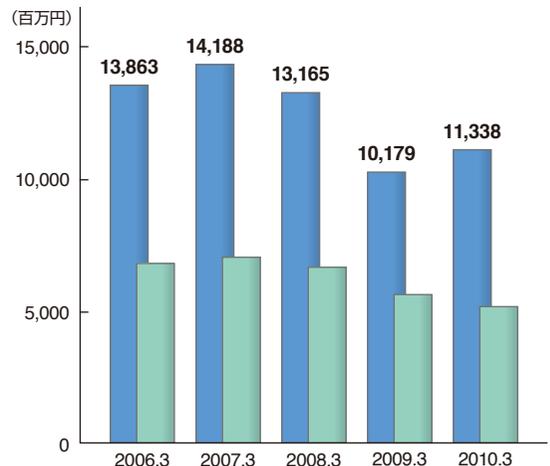
## 売上高の推移

■ 通期 ■ 第2四半期累計



## 経常利益の推移

■ 通期 ■ 第2四半期累計



流動資産・固定資産

現預金および営業資産減少

流動資産は、前期末比338億円減少の6,107億円となりました。現金及び預金を173億円減少させたほか、リース債権及びリース投資資産などの営業資産が減少しました。固定資産は、賃貸資産を中心に前期末比26億円減少し137億円となりました。

営業資産残高

リース・割賦は減少、  
営業貸付金は増加

前期末比 **1.9%減**

営業資産残高※は、前期末比106億円減少の5,489億円となりました。設備投資抑制による取扱高減少でリース・割賦事業の営業資産は189億円減少する一方、診療所の開業支援融資や住宅ローンの取扱高が順調に伸びた営業貸付金は増加しました。

※営業資産残高と連結貸借対照表の割賦債権・リース債権及びリース投資資産・営業貸付金・賃貸資産の合計額が異なりますが、営業資産残高の割賦債権には未実現利益(利息相当分)が含まれないためです。

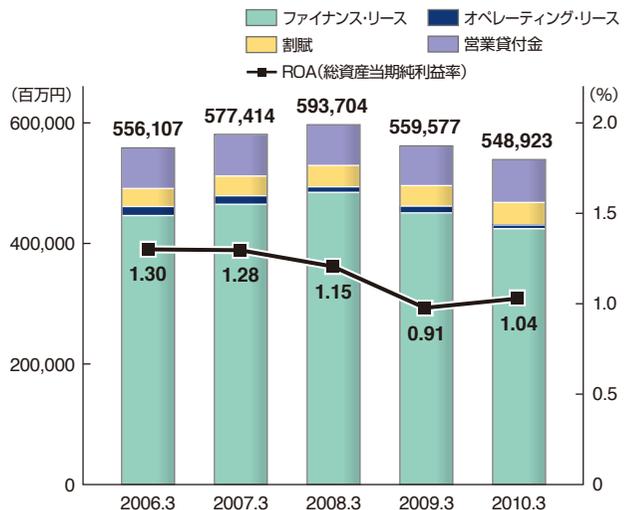
連結貸借対照表

【資産の部】

(単位:百万円)

科 目	前 期 2009年3月31日	当 期 2010年3月31日
● 流動資産	644,608	610,743
現金及び預金	17,888	489
割賦債権	37,919	39,845
リース債権及びリース投資資産	449,306	430,187
営業貸付金	66,166	74,436
その他の営業貸付債権	17,947	15,128
その他	62,895	59,849
貸倒引当金	△7,514	△9,194
● 固定資産	16,482	13,787
賃貸資産	10,137	8,341
社用資産	3,086	2,506
投資その他の資産	3,258	2,939
資産合計	661,091	624,530

● 営業資産 / ROAの推移



語句解説

ROA:

当期純利益 ÷ 総資産

当社が目指す高収益体質の重要指標と位置付けています。

(→P13 営業資産 / ROAのグラフ)

固定化率:

固定金利(金利情勢に応じて金利が変動しない)負債比率の略。

固定金利負債 ÷ 有利子負債合計

(→P14 有利子負債 / 固定化率のグラフ)

## 【負債の部】

(単位:百万円)

科 目	前 期 2009年3月31日	当 期 2010年3月31日
<b>流動負債</b>	<b>350,669</b>	<b>328,212</b>
支払手形及び買掛金	16,340	17,211
短期借入金・CP	206,297	153,949
1年内返済予定の 長期借入金・社債	87,176	114,200
支払引受債務	23,343	25,280
その他	17,511	17,570
<b>固定負債</b>	<b>219,976</b>	<b>200,299</b>
長期借入金・社債	216,408	197,001
その他	3,567	3,298
<b>負債合計</b>	<b>570,645</b>	<b>528,512</b>
<b>【純資産の部】</b>		
<b>株主資本</b>	<b>90,192</b>	<b>95,707</b>
資本金	7,896	7,896
資本剰余金	10,160	10,160
利益剰余金	72,180	77,696
自己株式	△45	△45
<b>評価・換算差額等</b>	<b>115</b>	<b>135</b>
其他有価証券評価差額金	115	135
<b>少数株主持分</b>	<b>137</b>	<b>175</b>
<b>純資産合計</b>	<b>90,446</b>	<b>96,017</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>661,091</b>	<b>624,530</b>

## 有利子負債

## 固定化率上昇

前期末比 **8.8%減**

有利子負債は前期末比447億円減少し4,651億円となりました。短期借入金・CPを返済する一方、社債の発行を行い、資金調達の安定化を図りました。資産の減少にあわせて、有利子負債を減少させることで資金調達費用を削減しました。この結果、固定化率は41%から48%に上昇しました。

## 自己資本比率

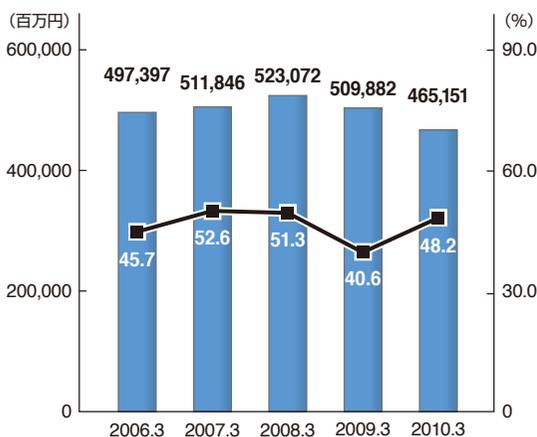
前期末比1.6ポイント上昇

**15.3%**

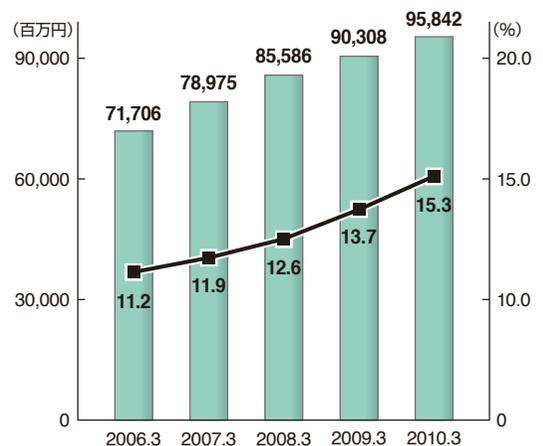
自己資本は前期末比55億円増加し958億円となりました。総資産の減少もあり、自己資本比率は前期末の13.7%から15.3%に引き続き上昇しました。今後も健全な財務体質を保つために自己資本の増強に努めてまいります。

※自己資本比率算出上の自己資本の額は、純資産合計から少数株主持分を引いた額になります。

## 有利子負債／固定化率の推移

■ 有利子負債 ■ 固定化率


## 自己資本／自己資本比率の推移

■ 自己資本 ■ 自己資本比率


## 会社概要 (2010年3月31日現在)

商号 リコーリース株式会社  
(RICOH LEASING COMPANY, LTD.)

本社所在地 〒135-8518  
東京都江東区東雲1-7-12

資本金 7,896,868,687円

上場市場 東京証券取引所市場第一部  
(証券コード:8566)

従業員 861名(連結)

設立 1976年(昭和51年)12月

事業内容 フィナンシャルサービス事業  
(リース、割賦、クレジット、ビジネスローン、  
保険、ファクタリング等)

財務局 関東財務局長(9)第00286号  
ナンバー

## 役員 (2010年6月18日現在)

### 取締役

代表取締役 吉田勝美  
代表取締役 有川貞広  
取締役 打込愛一郎  
取締役 島田昇次  
取締役 長田泰賢  
取締役 我妻一紀  
取締役 畠中健二

### 監査役

常勤監査役 宮野美晴  
社外監査役 皆川邦仁  
社外監査役 大澤 洋  
社外監査役\* 小林貞五

\*印を付した監査役は  
株式会社東京証券取引所の  
定める独立役員です。

### 執行役員

会長執行役員 吉田勝美  
社長執行役員 CEO 有川貞広  
専務執行役員 打込愛一郎  
専務執行役員 島田昇次  
常務執行役員 長田泰賢  
常務執行役員 清見純子

執行役員 斉藤 満  
執行役員 吉川 淳  
執行役員 真鍋 求  
執行役員 中嶋祥行  
執行役員 武藤裕文  
執行役員 梨木隆志

## 主な営業拠点

北海道から沖縄まで、リコーリースは日本全国の地域をカバーしています。

### 北海道・東北

札幌／旭川／仙台／盛岡

### 関東

本社(江東区)／立川／横浜／千葉／さいたま／  
宇都宮／水戸

### 甲信越・中部・東海

名古屋／静岡／金沢

### 関西

大阪／神戸／京都

### 中国・四国

広島／岡山／高松／松山

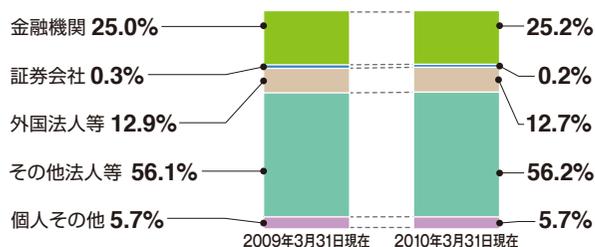
### 九州・沖縄

福岡／熊本／那覇



## 株主情報 (2010年3月31日現在)

### ●株式分布状況の推移(所有者別)



### ●株価および売買高の推移



### ●株式の状況

会社が発行する株式の総数  
120,000,000 株  
発行済株式の総数  
31,243,223 株  
株主数  
7,439 名 (単元株主数 6,950名)

### ●大株主上位10名

株主名	所有株式数 (千株)	所有比率 (%)
株式会社リコー	14,638	46.85
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	1,776	5.69
全国共済農業協同組合連合会	1,233	3.95
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	1,180	3.78
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	1,179	3.78
資産管理サービス信託銀行株式会社 (年金信託口)	924	2.96
三菱石油株式会社	569	1.82
コカ・コーラウエスト株式会社	502	1.61
資産管理サービス信託銀行株式会社 (証券投資信託口)	447	1.43
THE CHASE MANHATTAN BANK, N.A. LONDON SECS LENDING OMNIBUS ACCOUNT	363	1.16

## 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日  
 定時株主総会 毎年6月開催  
 基準日 定時株主総会 毎年3月31日  
 期末配当金 毎年3月31日  
 中間配当金 毎年9月30日  
 そのほか必要があるときは、  
 あらかじめ公告して定めた日

単元株式数 100株  
 株主名簿管理人及び  
 特別口座の口座管理機関 大阪市中央区北浜四丁目5番33号  
 住友信託銀行株式会社  
 株主名簿管理人  
 事務取扱場所 東京都中央区八重洲二丁目3番1号  
 住友信託銀行株式会社 証券代行部

郵便物送付先  
 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10  
 住友信託銀行株式会社 証券代行部  
 電話照会先  
 ☎ 0120-176-417  
 住友信託銀行ホームページ  
<http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>

公告の方法 当社ホームページに掲載する。  
<http://www.r-lease.co.jp/>  
 上場証券取引所 東京証券取引所市場第一部  
 証券コード 8566

### ご案内

#### 株式に関する住所変更などのお届出およびご照会について

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更などのお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。  
 証券会社に口座を開設されていない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。

## アンケート結果のご報告

当社では、本書をはじめとするIR活動の改善を目指し、株主の皆様には毎回アンケートを実施しています。前回よりアンケートのご回答方法をハガキ(郵送)からインターネットに変更し、郵送コストを削減しました。ご協力いただき誠にありがとうございました。

前回は株主の皆様のうち6.8%の方からご回答をいただきましたが、ここでは、アンケートの中で多かった質問やコメントをピックアップしてお答えします。

### 株主の皆様の声

①業界用語やカタカナ用語、ローマ字の略語が多いので、その説明が必要です。

→「語句解説」のコーナーを設けました。  
(P4、P6、P11、P13)

②いつも頑張っている社員の姿を見て感動しています。

→今回は、営業および事務系スタッフにもフォーカスしました。(P6、P8、P9)

※ご質問の多かった項目については、以下のQ&Aにて詳しく説明させていただきます。

③事業紹介は予想外の事業(集金代行サービス)があつて興味を持ちました。

→リコー集金代行サービスのほかにPCマネジメントサービスとリコーグローバルマネーカードをご紹介します。(P6、P8)

④冊子の裏表紙に社会貢献の証がマークとして載っていますね。詳細の説明があると嬉しいのですが。

→裏表紙に簡単なご説明を記載しました。

## Q. 2008年4月にスタートした新リース会計基準とは、どのようなものですか？

### 新リース会計基準の適用対象

①上場会社及びその関連会社等(証券取引法適用会社)

②資本金5億円以上又は負債200億円以上の会社及びその子会社(会計監査人設置会社)

※①②を除く株式会社は、「中小企業の会計に関する指針」に従って新リース会計基準の適用除外を受けられる。

**A.** 上記のような会社が、新リース会計基準の適用対象となります。

適用となる会社は、貸借対照表にリースに係る資産と負債を計上(オンバランス)することとなりました。しかし、当社の主要顧客である**中堅・中小企業**は、今までどおりの会計処理となります。

また、対象となる会社の場合でも、**1件当たりのリース料総額が300万円以下**のリース取引は適用対象外です。

また、新リース会計基準の適用に関わらずリースをご利用いただくお客様には引き続き右記のようなメリットがあります。

### 参考 リース利用のメリット(例)

- 業務のアウトソーシングが可能  
(固定資産税・動産保険料の支払いなど)
- 支払い計画が立てやすい(毎月定額払い)
- 金利上昇のリスクを回避
- 一度に多額の資金が不要
- 使用期間に応じた期間設定が可能
- 環境に配慮した物件処分が可能

※ほかに動産総合保険が付保されており、機器を安心して使用できます。

Q. この冊子以外にも、リコーリースのより詳しいサービス内容などの会社情報を知りたいのですが。

A. ぜひ、当社のホームページにお立ち寄りください。リース等各種サービスのご案内から企業情報まで、お客様にも個人投資家の皆様にも関心のある内容が充実しております。また、最新ニュースをメールでお届けするサービスもございます。

当社に関する最新ニュースをメールでお送りしています。IR・財務情報画面の「IRメール配信サービス」をクリック！

当社のIRサイトは、日興アイ・アール株式会社が実施した「2009年度全上場企業ホームページ充実度ランキング調査」の総合ランキングで3,779社中第16位。大和インベスター・リレーションズ株式会社が発表した「2009年インターネットIR・ベスト企業賞」では、優良企業賞を受賞！



URL <http://www.r-lease.co.jp/>

Q. 株主優待制度について詳しく教えてください。

A. お送りした優待品をご使用いただくことで、株主の皆様も社会貢献活動にご参加いただける制度です。

## 株主優待

3月末の株主名簿に記載された100株（一単元）以上の株主を対象

クオ・カード か 図書カード のいずれかひとつを選択

保有継続期間 1年未満：→3,000円相当

保有継続期間 1年以上：→4,000円相当

保有継続期間 3年以上：→5,000円相当

※保有継続期間の認定は、3月末を基準とさせていただきます。※保有期間は3月末と9月末の2回行います。



## 株主参加型社会貢献活動

優待品の使用状況に応じて、使用額の一部を「緑の募金」へ寄付します。

リコーリースでは、株主参加型社会貢献活動を実施。

株主優待としてお送りする優待品を使用することで、「緑の募金」への寄付を実施。



- 1 リコーリースから、単元株以上をお持ちの株主の方々に、優待品を送付いたします。
- 2 お送りした優待品を書店、各種小売店にてご利用いただけます。
- 3 カードの発行元がカードの使用状況を確認し使用データをリコーリースに通知します(※)。
- 4 使用額の一部をリコーリースは国土緑化推進機構が運営する「緑の募金」に寄付します。

※ご利用については、クオ・カードのみ機能が可能であり、図書カードにつきましては、クオ・カードの使用率をそのまま適用する形で確認いたします。

リコーリースは、環境への配慮や社会貢献も企業の重要な使命と考え、様々な活動に取り組んでいます。



## 水なし印刷

廃液が有害物質等を含む現像液や湿し水を使用しない、環境にやさしい印刷方式「水なし印刷」を採用しています。



VOC(揮発性有機化合物)成分フリーのインキを使用して印刷しました。

## VOCフリーインク

石油系溶剤を植物油成分に100%置き換えた「VOC成分ゼロ型インキ」を使用しています。



FSC認証林及び管理された森林からの製品グループです  
www.fsc.org Cert. no. SA-COC-1277  
© 1996 Forest Stewardship Council

## FSC認証紙

適切に管理された認証森林からの木材を使用した用紙が使われています。



## カラーユニバーサルデザイン

色覚の個人差を問わず、多くの方に情報がきちんと伝わるよう配慮されたカラーユニバーサルデザインの認証を取得しています。



## ピンクリボン

乳がんの早期発見・早期治療を啓発するこの活動を当社は積極的に推進し、各種イベントへの参加や検診率向上への取り組み等を行っています。



## 子育てサポート

当社は育児支援制度をはじめ次世代育成支援のための雇用環境整備を行い、『次世代認定マーク(通称:くるみん)』を取得しています。

## 表紙写真について

### 「ヒマワリ」

夏の太陽、向日葵。大きく丸い地上の太陽は、いつも私たちの心を明るく照らしてくれる。

～リコーフォトグラフアーズギャラリーより～

撮影場所：東京

撮影機種：Caplio R4

撮影者：吉住志穂(写真家)

リコーデジタルカメラ活用&コミュニティ Photo Style

<http://www.ricoh.co.jp/dc/photostyle/>

## フォトコンテストのご紹介

株式会社リコーでは、リコー製デジタルカメラで撮影した皆様の作品の各種フォトコンテストを開催したり、ユーザーレポートを募集しています。

応募要項や受賞作品、フォトグラフアーズギャラリーの作品は、下記リコーのホームページでご覧いただけます。

## リコーデジタルカメラのご紹介



GR  
DIGITAL

◀GR DIGITAL III

「GR DIGITAL III」は、「GR DIGITAL」、「GR DIGITAL II」で追求したコンセプトを継承し、新開発の「GR レンズ 28mmF1.9」、新画像エンジン、新CCDの採用により伝統の高画質を進化させ、さらに、速写性、表現力、操作性を高めた製品です。

## リコーリース株式会社

〒135-8518 東京都江東区東雲1-7-12

お問合せ先：経営企画室

TEL: 03-6204-0608 E-mail: [ir@rle.ricoh.co.jp](mailto:ir@rle.ricoh.co.jp)

<http://www.r-lease.co.jp/>

この冊子はページを綴じるのに従来のような針金を使用せず、糊付で製本されております。針金を使用していると、不要となった際に針金だけ紙からはずして分別しなくてはならず、万一分別せずに出してしまうと、燃やされる工程で有害物質が発生してしまう恐れもあります。その点糊付の場合は資源として回収されるので分別の必要がなく、環境にも配慮しています。